

「メディア考古学の展望」

日 時：2016年5月14日（土）15:00-17:00

会 場：同志社大学今出川キャンパス徳照館1階会議室

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/imadegawa.html>

問題提起者：赤上裕幸（防衛大学校）

討 論 者：大久保遼（愛知大学）

司 会：白戸健一郎（筑波大学）

企画の意図：

本研究会では、近年研究が蓄積されつつあるメディア考古学を主題として、その方法論や意義、これまでのメディア史研究との差異やインプリケーションについて議論を深め、これからのメディア史研究の可能性を探る。メディア考古学は、メインストリーム・メディアや現在のメディア・テクノロジー、メディア・システムへと至る過程を直線的に記述することの多いこれまでのメディア史研究とは、発想を異にしている。今回は、『ポスト活字の考古学』（2013年）を公刊し、メディア考古学や仮想歴史学（ヴァーチャル・ヒストリー）の研究を行う赤上裕幸氏に、大久保遼氏の『映像のアルケオロジー』（2015年）を素材に問題提起を行ってもらいながら、近代日本の映像文化史をメディア考古学的に考察することの意義、歴史記述におけるフィクションの扱い、映像メディア以外の他のメディア文化への応用可能性、さらに、これまで蓄積されてきたメディア史へいかに架橋していくかについて議論し、共有しつつ、メディア史研究の新たな展望を開く場としたい。